

自然観察指導者育成研修会報告

活動日 令和4年7月30日(土)

場 所 下名栗

参加者 西田 藤井 鈴木 原 田崎 早川

講 師 高杉

報告者 早川



猛暑を避けるため集合時間を1時間早め、午前8時に飯能市市民会館に集合、ここから2台の車に分乗して下名栗の森に移動した。観察エリアは、沢沿いの林道で両側にスギ・ヒノキの人工林が続く。始めに高杉講師から「小学校などから依頼を受けて行われる自然観察会の要望に応えられるように知識の積み重ねと不断の心構え」を主眼にした研修の意義が伝えられた。研修会は参加者が持参した植物図鑑を見せ合い、その本の掲載植物が公園・里山・低山・高山のいずれの地域を重点に置かれているかなどの解説からスタート。この実践的な指導は図鑑選びに大変参考になった。

午前9時、沢沿いの林道を進みながら同定対象の植物を写生することから始まる。葉の付き方、葉柄、葉の感触、花びら等を観察しながら写生を続け、次に図鑑を見ながら同定に入る。正解にこぎ着けたメンバーの図鑑の解説文を読み上げ、情報を共有し合うことで同定までの道筋を学ぶ。ダイコンソウ、マツカゼソウ、ミゾホオズキ、ハグロソウ、マムシグサなどを同定。図鑑に記載されている専門用語の解説と目の前にある植物とを見比べることで図鑑の説明文がより深く理解できた。

講師からは自分のフィールドをもって定点観察を行い、観察記録を図鑑の形で整理することが大切です！と貴重なアドバイスを受ける。あっという間に午前中の3時間が経過、ここで昼食となる。

午後は、ひとまず同定を終了して、林道を先に進む。よく手入れされた林道沿いの沢筋にはシダ類が多く繁茂していたが、イワタバコの群生も存在感を放っていた。シダ類が渓谷や沢沿いの水源の豊かな湿気の多い所に繁茂する生態

は「シダの繁殖のメカニズム」と関係があることを教わり、にわかにシダ類に関心が集まる。ツルデンダ、イワデンダ、オオバノイノモトソウ、イワガネソウ、ハカタシダ、オオバノアマクサシダなどが紹介された。8月のお盆前後には、イワタバコ、ヤマホトトギスが盛りになりそうな予感がした。

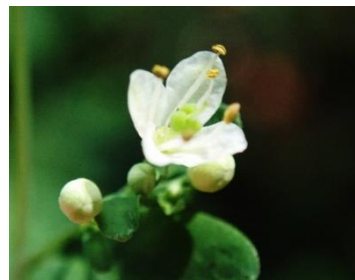
午後2時、高杉講師より、こうした研修会が互いの情報交換の場となり、会員同士の絆ができることを願っています！と暖かいエールを頂き解散となりました。



ダイコンソウ



マツカゼソウ



マツカゼソウ



マムシグサ



マムシグサ



ミゾホオズキ



ハグロソウ



イワガネソウ



イワガネソウ